

榎澤吉行様

前略 榎澤さん、はじめまして。キリンOBの端くれです。

キリンに関する記事をたびたび掲載されておられるようですが、過去に何かあったのでしょうか？ いずれにしても広報窓口混乱系の記事では読者の皆さんも興味が薄いでしょうから、掲載するならもっと興味が湧きそうな内容のほうが良いと思います。そこで幾つか情報を差し上げますのでご参考にしていただければ幸いです。ただしこのまま手紙を写真掲載するとか、そのまま引用することは絶対に避けてください。この他にもネタは続きますから、くれぐれもよろしくお願い致します。

第一弾として、株主総会が3/27に近づいて来たので、その関連の情報をお伝えします。

今キリンは会社の存続が危ぶまれるような危機的状況に陥りつつあり、多くの社員が不安と不満を抱えながら働いています。理由は簡単です。2代続いて無能で有害な経営者が続いているからです。先日役員人事が発表されたようですが、トップはまだ続投するようで現役の社員は勿論関係者一同残念がっているそうです。この窮状から脱却するためにも株主総会で吊し上げるなり株主代表訴訟を起こす等で処罰してもらいたいと思います。何故なら社員も誰も何も言えない状況で、正に独裁恐怖政治の中で働いているからです。この辺りは次回に触れます。

本題を続けます。ビール類でトップから陥落した後、当時トップになった荒崎社長は「新キリン宣言」を発表し、お客様を見据えた経営と行動を行うように大号令をかきました。それは確実に社内に浸透し反省の上に再スタートが切られた筈でした。しかし新崎社長から加藤にトップが替わった瞬間に、以前以上の状況に戻ってしまったのです。まずはトップがビールシェアの代替目標としておいたのが「食品企業での株式発行時価総額トップ」です。過日、サントリー食品インターナショナルが上場した時も総額がキリンを超えなかったことが判って役員一同安心していたそうです。ただこの問題の本質は彼らが株価を実力以上に引き上げるために配当金を大盤振る舞いしていることです。現在キリンの配当金は◎29円で直近の配当性向は1.98程度です。サントリーは実績が無いのでアサヒと比べると◎28円で性向は0.96程度です。ご存知のとおり、キリンが意味の無い巨額のM&Aを繰り返したことで、ストックホルダーの皆さんからも愛想をつかさ、株価は低迷しています。それでも低いに株価を何とか今の水準を維持しているのが既述の配当金◎29円ではないでしょうか。アサヒと同等の配当性向とした場合は◎14程度が実力ではないでしょうか？ これはキリンの8年位前の配当金に相当します。何れにせよ過剰分◎15円分を自分たちのプライドのために余分に払っているとしたら…。発行総数が965,000,000株ですから約150億円をばら撒いていることになります。150億円？ この意味がわかりますよね。その金は何処から来るのか？ キリンの根幹であるビールを初めとした商品の開発のための必要な投資を削り、営業部門での拡販費や広告費を圧縮することで漸く原資を確保しています。現場の営業は正に竹槍で戦わされているようなものです。更に無意味なM&A=無能なお坊ちゃん社長のマネーゲームの為に巨額の金を借金した結果、毎年幾らの金利を支払っているのかは調べていただければ分かると思います。IRではやれ、オーストラリアの原乳価格が…、やれ、為替相場が…、と言い訳をしています。投資した資金の回収の見込みは誰にも見えないのではないのでしょうか。何と云っても少なくとも適正価格の倍以上の買収価格でM&Aをしているのですから当たり前です。だから呆れて見向きもしない投資家の皆さんの関心を買うために配当金を過剰に支出する。その昔、特約店に条件を付けて年末に積み込みを行いアサヒと凌ぎを争っていたことと何も変わらないのです。今は買うものを買っているのです株主の皆さんは文句は言わないでしょうが、お客様から市場で見放されて売れ上げが更に下がり、利益も出てこなくなったら、真っ先にこんな株は売れたたかれるでしょう。本当に今だけ、自分が社長で居るときだけの姑息な策に過ぎません。無能なお坊ちゃん社長のマネーゲームで会社が傾く…。さすがにヤバイと思ったのか加藤は早々に逃げてしまっています。ただ2代目がさらに悪化させてしまっています。これ以上現場は限界でしょう。最終的にはストックホルダーを裏切るこのような行儀は狡猾な背任行儀ではないのでしょうか？ どう思われますか？

DSM